

芸術鑑賞「ヘレン・ケラー ～ひびき合うものたち」

6月7日（木）、本校体育館で芸術鑑賞が行われました。

今年度は、東京演劇集団 KAZE の演劇「ヘレン・ケラー ～ひびき合うものたち」を鑑賞しました。視覚と聴覚の重複障害者でありながら障害者の教育、福祉の発展に尽くしたことで知られるヘレン・ケラーと、その生涯の師であり友人であるアニー・サリバンの出会いに焦点を当て、人間の可能性について描かれた素晴らしい作品でした。約2時間の舞台でしたが、生徒たちは集中して観劇していました。プロの舞台を見るのが初めての生徒も多く、役者のみなさんの演技の迫りに圧倒されていました。

観劇終了後、各クラスの代表者が、アニー・サリバン役を演じられた渋谷愛さんを囲んだ座談会を行いました。舞台に立つ心構えや役になりきる方法、発声法などを教えていただきました。今年度の文化祭で演劇を行う2、3年生には大変参考になったと思います。



～生徒の感想～

○ヘレン・ケラーの物語は本で見たことがあったので、「どうせ内容知ってるし…」と思っていたけれど、演者さんの迫真の演技や音楽、照明などの効果があり、とても引き込まれました。

○一人一人とても伸び伸びしていて迫力のある演劇でした。ヘレン・ケラーはセリフがなく、難しい役だと感じましたが、すごく魅力的な演技で、とても上手でした。テレビで見るとはまた違った感覚が味わえてとても良かったです。

○一人一人の迫力のある演技が見ることができて、とても勉強になった。この機会を無駄にせず、学校祭の自分たちの演劇に生かしていきたいと思いました。

○大迫力の演技で、セリフの言い方やセリフがない人の表情やリアクションなど勉強になりました。アニー・サリバン役の方は舞台ではとても大きく見えました。

○ヘレン・ケラーの話は全く知りませんでしたが、今日の演劇で話がわかり良かったです。とても素晴らしい演劇でした。舞台の使い方もすごくて、話の流れが途切れることなく景色が変わる手法を私たちのお手本にしたいと思いました。